

瀬田川プランクトン調査結果速報

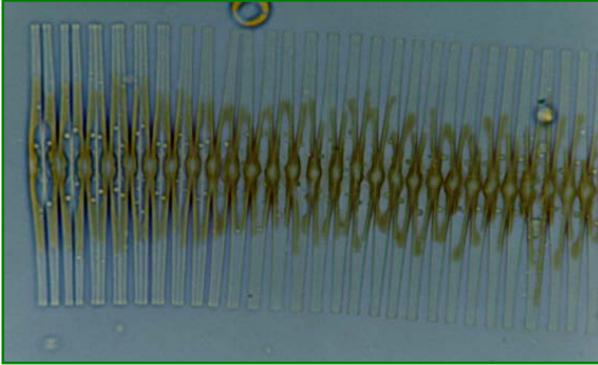
～第11報～

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当

平成21年6月15日

1. 最も数が多かった種類(優占種)

植物プランクトン第1優占種



Fragilaria crotonensis
(オビケイソウ)
珪藻綱

多数の細胞が中央殻面で互いに接しあつて、帯状の群体を形成して浮遊する。

動物プランクトン第1優占種



Polyarthra vulgaris
(ハネウデワムシ)
輪虫類

体は四角く、横に鳥の羽状の付属物が4ヶ所付いている。
前部に2本の触角がある。

コメント

植物プランクトンでは、珪藻に属するフラギラリア(オビケイソウ)が優占種となった。体積で見るとケラチウム(イケツノオビムシ)が最も多くを占めたが、総体積の半分以上を占める種類は見られなかった。動物プランクトンでは、ハネウデワムシが320個体/Lで先週に引き続き優占種となった。ピコ植物プランクトンは、輝橙色のものが30,000細胞/ml、深赤色のものが2,000細胞/ml計数され、合計32,000細胞/mlとなった。

2. 見つかった主なプランクトンとその数(個体数)

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体/L)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	320

第 2 優 占 種		個体数 (個体/L)
輪虫類	<i>Conochilus unicornis</i>	140

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当

(2) 植物プランクトン

平成21年6月15日

第11報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)		
		数	体積
(珪) <i>Melosira varians</i>	5		
(珪) <i>Cyclotella</i> sp.	2		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	190	◎	
(珪) <i>Fragilaria capucina</i>	73	○	
(珪) <i>Synedra acus</i>	1		
(珪) <i>Cocconeis placentula</i>	10		
(珪) <i>Cymbella ventricosa</i>	3		
(珪) <i>Navicula</i> sp.	10		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	10		
(渦) <i>Ceratium hirundinella</i>	7		◎
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	10		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	30		
(緑) <i>Eudorina elegans</i>	32		
(緑) <i>Scenedesmus</i> sp.	4		
(緑) <i>Mougeotia</i> sp.	3		○
(緑) <i>Closterium aciculare</i> var. <i>subprorum</i>	1		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(珪) 珪藻綱	304	77.7	31.2
(渦) 渦鞭毛藻綱	7	1.8	42.8
(褐) 褐色鞭毛藻綱	40	10.2	4.5
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	40	10.2	21.5
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	391	総体積 (μm^3)	4.90E+05
種 類 数	16		

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)
ただし*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位: %)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。



ピコ植物プランクトン
1,000倍G励起で撮影

(3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	6月15日 細胞数/ml
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	32,000

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが0.2~2 μm (1 μm は1mmの1,000分の1) の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。